

議事録

内 容	第1回豊橋市まちなか図書館（仮称）実施計画策定懇談会
日 時	平成27年7月11日（土） 午前10時00分～12時00分
場 所	豊橋市中央図書館 3階会議室
出席者	内藤 咲野、白井 琢也、柘植 晶子、鮎川 真世、荒川 雅彦、河合 萌杏、中野 真美子、内浦 有美、木下 博貴、中井 孝幸、野澤 未来、事務局（まちなか図書館整備推進室：伊藤室長、加藤主幹、小林主査、三浦 / 図書館：天野館長）

要 旨	
事務局	<p>1 あいさつ 実施計画の策定にあたってみなさんのご意見を参考にしたい。活発な意見をいただければと思います。</p>
委員等	<p>2 自己紹介 （懇談会委員等、自己紹介）</p>
事務局	<p>3 まちなか図書館（仮称）について 説明 （資料：豊橋市まちなか図書館（仮称）整備基本計画、パブリックコメント結果）</p>
事務局	<p>4 懇談会の趣旨、進め方について 説明 （資料：「まちなか図書館（仮称）実施計画策定懇談会について」）</p>
委員 事務局	<p>次からもこの座席なのか。 皆さんが意見を言いやすいようなスタイルを考えたい。</p>
委員	<p>5 自由意見 まちなかに素敵な木があるので、ツリーハウスや、ピザ窯があったら行くかも。他と同じものを作っても行かないので、ガラス張りのところがあって、PLAT の出演者が顔を出したり。興味が無い人も体感できるような仕組み。</p>
委員	<p>稼げる図書館。東三河、浜松、岡崎と、もう少し対象を広げて良い。人が集まって来ないといけないが、魅力がないと人は来ないと思う。産業と繋がっていないと、人口は減っているし、魅力がないので大都市に行ってしまう。例えば、システム開発などは PC があればどこでもできる。若い人がそういったものに取り組める起点になれば、雇用も生まれる。そういったものが図書館にあれば。</p>
委員	<p>高校卒業後に豊橋に来たので友達が少ない。たまに人と出会いたくなるが、豊橋で出会うのは難しい。美術館等も好きだが、敷居が高くてなかなか行けない。名古屋の読書会に参加したことがあったが、大規模すぎて馴染めなかった。豊橋には気軽に誰でもいけるイベントはあまりないので、そういうイベントがあるとよい。</p>
アドバイザー	<p>日本には、「図書館で話してはいけない」というのが暗黙の了解である自身、いろんな図書館を調査した。アンケートで一番多いのが、「うるさい」「うるさいと怒られた」という意見がある。うるさいと言っているのは、高齢者男性。うるさいと言われるの</p>

	<p>は若いお母さん。そこを改善する必要がある。静かなところをつくってあげて、あとはしゃべっていいよ、となると、話もできる。音の問題は、大きいなと思う。「にぎわいのある…」というが、音の問題が絡んでくる。人によって「嫌だ」と感じる音は違う。</p> <p>図書館は音のあるものだという発想に変えていくのがよい。そうするといろいろとできるなど。図書館で出会いがないのは、喋れないから。これをクリアできれば、企画として様々なものが生まれるかなと思う。</p>
委員	<p>高齢者の方に、力になってもらう。自分の家の隣に大きな公園がある。そこで朝ゲートボールをやっている。それを家で見ていると元気をもらえる。高齢の方でもエネルギーのある方に、ボランティアをやってもらう。子どもたちと交流ができる場所を設けたりとか、相談できるスペースがあれば世代間交流ができるのではないかな。</p>
委員	<p>先程から「豊橋に遊ぶところがない」という話がある。豊橋は、朝モーニングに行っ、ランチをして、居酒屋に行っ、と飲食店はたくさんある印象。だが、間を繋ぐ時間をどうしようかと悩む。遊ぶところが少ないので、そういう機能を図書館の中に作ったらいい。Fab labo という浜松にあるものづくりの拠点だったり、趣味で集まれるスペースだったり。</p>
委員	<p>図書館というと話もできない。話す声も抑えないといけないと考えながら話しているので、話せるスペースがあると良いなと思う。</p> <p>あとは、静かに勉強できたり、個人で静かに本が読める場所とか、ちゃんと分けてあげればいいのかと思う。個人で行った場合と、集団でいった場合では違うので。</p>
委員	<p>私は、テスト期間中はファミレス等で勉強している。ファミレスは飲み物が飲めたり、自由に、気軽に行ける。</p> <p>豊橋には、お祭り事、祇園祭や鬼祭などがあるときは人がいるが、普段は人がいない。もっと自由に、気軽に行けるイベントがあったら行きたいなと思う。</p>
委員	<p>図書館に並べる本はどう決まるのか。</p>
オブザーバー	<p>図書館流通センターから送られてきた資料（週刊新刊全点案内）の中から、自分たちで選ぶ。書店組合や出版社から提案がある場合がある。</p>
委員	<p>中央図書館の司書への質問はどういうものが多い？</p>
オブザーバー	<p>1階だと、日常の質問がある。「最近腰が痛くて…そういう本はありますか」等。2階だと、研究に関する質問。「今豊橋のこのことについて調べています」等。</p>
委員	<p>今回想定されている10万冊の所蔵と、計画が3000～4000平米くらいのイメージが分かりづらい。中央図書館よりも、かなり余裕があるようだが。</p>
オブザーバー	<p>そう思う。ただ、今の中央図書館は、結構ツメツメ。本棚で、7割が本、3割が空間というのが理想と言われている。</p>
アドバイザー	<p>全国の蔵書数が何十万冊とある図書館でも、開架は10万～12万冊で、内容を変えていく。利用率が下がった本は、開架書庫から閉架という流れなのだが、回転率を良</p>

	<p>くしていこうと。それでいくと、3000平米だと30万冊の図書館が普通なので今回は、ゆとりとしてはある。フェイスアウトと言って本の表紙を見せる方法があるが、いかに本を取ってもらうかということに関してチャレンジできる。</p>
委員	<p>まちなかには、「先生」みたいな人がたくさんいる。図書館で講演会等をやり続けると維持が大変だが、まちなかの先生が活動できる場があればいいなと思う。そもそも「図書館」という名前もやめてしまってもいいかなと思う。</p>
委員	<p>資料としていただいたパブリックコメントに目を通して、厳しい意見が多いなと思った。図書館か、まちなかの賑わいか、という根本的な問いかけ。図書館にはスペシャリストがいる。まちなか活性化のスペシャリストもいる。その融合が、一番ミソになる。全国的に見ても稀な事例。今後のことで、似たような事例として、ここにことか、PLATがある。ああいったものができたときに、にぎわい創出にどのようなつながったのかどうか。経済効果だとか。人の動きだとか。検証データがあるならば、見てみたい。</p> <p>沖縄・恩納村に情報センターや図書館等が入っている複合施設がオープンした。そこで、本が読みたい放題読めるという素晴らしい施設。1階に、恩納村の活性化チームのブースがあって、そこでみんなでシステムを作っている。本を置くと歴史の情報が出てきたり、おすすめ本が出てきたり。それに紐付いた地域ワークショップで出てきた観光情報とかが出てくる。観光客向けに良いなと思った。</p>
アドバイザー	<p>浦安の図書館は課題解決型である。図書館の流れとして、昔は貸出型、今は滞在型、これからは課題解決型となってきている。こういったことを誰がやっているかというところ、司書であるが、浦安の司書を鍛えているのは高齢者。今までの経験を教えている。お母さんたちは居場所やコミュニティがある。ただ、お父さんは居場所がない。だから、図書館にいろいろなと調べたがる。そうすると、司書に話を聞くから、司書が鍛えられる。</p> <p>また、ビジネス支援で有名なのは、鳥取県立図書館。こちらは図書館が先導している。先ほどもあったとおり、高齢者を上手く活用できないか。図書館は、記録していく役割があると思う。地域のものは図書館に行かないと分からない。だから、図書館はそういう機能が必要。先ほどの観光の話もそう。図書館はもっと風呂敷を広げても良いと思う。図書館は、本を読まなくても入ってきてもいい。いろいろな人が来てよい施設なのに、敷居が高い。</p> <p>良い意見だなと思ったのは、ちょこっとした興味を図書館で持つことができ、出会いがある。そういった図書館ってまだないので、懐が広い図書館。</p>
オブザーバー	<p>図書館の役割は収集・保存・提供。この役割の分担を、中央図書館とまちなか図書館と連携してやっていければいいなと思う。</p> <p>自分は、就職して豊橋に来たが、まちの情報について知りたいときの窓口が分からなかった。まちなか図書館がその役割を果たせるようにしていきたい。</p> <p>6 次回の予定について</p> <p>8月1日（土）10時～12時 内容：図書館サービスについて</p>